

## 第2回射水市学校部活動在り方検討会 議事録

### 1 会 議

期 日：令和4年1月28日（金） 15：30～17：00

場 所：射水市役所会議室401

出席者：

- （委 員） 金谷会長（教育長）、丹羽副会長、寺島委員、矢崎委員、  
三上委員、金委員、朝倉委員、中村委員、川腰委員、古城委員  
（事務局） 原教育委員会事務局長  
久々江次長（生涯学習・スポーツ課長）  
杉高次長  
中川課長（学校教育課）  
北村班長（生涯学習・スポーツ課スポーツ施設整備班）  
安元課長補佐、小谷内副主幹（学校教育課）  
鳥本係長、荒木主査、旅家主任  
（生涯学習・スポーツ課スポーツ推進係）  
谷口専務理事、今泉事務局長、小田事務局員  
（（公財）射水市体育協会）

### 2 概 要

・開会のあいさつ（金谷教育長）

・議事進行（金谷教育長）

・報告事項

（1）生徒・保護者への休日の部活動の地域移行に関する調査（アンケート）  
結果について

【委員からの意見等】

（委員）

口頭で説明されたアンケートの内容（具体的な意見）も資料に示した方がわかりやすいと思う。

（委員）

回答した生徒が運動部か文化部かによって内訳に差はあるか、結果があれば教えてほしい。

（事務局）

回答した生徒のうち運動部は1, 105人、文化部は345人、その他無回答等もいた。「（1）休日の学校の部活動を行わなくなった場合、地域活動に参加するか。」の回答は運動部が「はい」727人、「いいえ」377人。

文化部が「はい」 187人、「いいえ」 157人であった。

(委員)

男女の内訳について差し支えなければ教えてほしい。

(事務局)

男子が737人、女子が726人、無回答が数人であった。

## (2) 競技団体への休日の部活動の地域移行に関する調査(アンケート) 結果について

### 【委員からの意見等】

(委員)

「(1) 休日の指導者の確保について」の設問にどの競技団体がどう回答をしたのか教えてほしい。

(事務局)

(1) について、「できる」と回答したのは柔道。「できる見込みがある」と回答したのはサッカー、剣道、ソフトテニス、バスケットボール、ソフトボール、ハンドボール、陸上競技、バドミントン、相撲。

「できない」と回答したのは野球、体操、水泳。

「できる見込みがない」と回答したのはバレーボール、卓球、ヨット。

(委員)

「(2) 休日の中学生の活動の展開について」の回答も同様か。

(事務局)

(1) 「できる見込みがある」、(2) 「アイディアがない」とソフトボールと相撲が回答した。相撲は、部員がいないからとの理由であった。

(委員)

回答の中に「総合型地域SCの事業として運営する。」とあるが、総合型地域スポーツクラブはアンケートの対象になっていない。これは競技団体から出た意見か。

(事務局)

競技団体から出たものである。競技によっては、総合型地域スポーツクラブの自主事業で中学生の指導をしているものもある。

(委員)

スポーツクラブは、土日は市民に広く体育館を貸す方向なので、スポーツクラブの教室は行っていない。休日の活動場所の確保は課題となる。

### ・報告事項

(1) 休日の部活動の地域移行(モデル競技)の運営方針(案)について

(2) モデル競技の選定方針(案)について

(委員)

モデル競技は、競技団体のアンケートの「できる」「できる見込みがある」と回答した競技から選ぶのか。

(事務局)

設問(1)(2)の両方に「できる」「できる見込みがある」と回答した競技団体と話し合いの上、モデル競技を決める。

(委員)

隣の中学校と合同で活動することもあるのか。それとも単独で行うのか。

(事務局)

その点も今後の課題であり、指導者の人数によって変わってくると考えている。

(委員)

体幹を鍛える指導者を増やしてほしい。体幹を鍛えれば、他の競技で技術が伸びるところもある。

(委員)

競技によっては地域の指導者の取り扱いになると思うが、指導者の確保について「できる」と答えた競技団体は1校を考えているのか。市内全域を考えているのか。

また、市にはスポーツ推進委員という組織があるが、部活動にどのように関わってくるのか。

(事務局)

アンケートの回答については、説明会を開催した上で回答していただいているので市内全域を想定しているはずだが、今後改めてヒアリングする。

スポーツ推進委員の中には部活動に関心がある方もいると思うが、100名以上の組織であり、全員で取り組むのは困難だと考えている。ただし、部活動の地域移行については話題として情報提供しており、競技団体に所属している方もいるので、適宜連携して進めたい。

(委員)

将来の目指す姿にも関わると思うが、モデル競技における地域活動は学校の教育活動と切り離す形でスタートするイメージでよいか。生徒が加入する保険についてはどのように考えているのか。教育活動としての部活動であれば学校長の承認を受けて部活単位で保険に入ることになるが、部活以外でスポーツをしている子は別に保険に入っている。保護者の経費負担がかさむと地域移行しづらくなることも考えられる。

(事務局)

学校の教育活動から切り離すのは難しいという意見もあったが、そこは課題と捉え、切り離す形でスタートしたい。土日の活動については、学校の保

険と別に保険に加入することになる。

(会長)

令和5年度からの段階的地域移行の中で、まず土日の活動を地域に移行して、その後いつ平日の活動も移行するのか国も方針を出していない。「土日だけでもうまくやれないか」というところから始まる。そうすると、最初は教員の働き方改革に逆行することもあるかもしれないが、平日も移行したら教員の負担は減ると思う。将来的に平日移行を見据えて取り組む以上、土日の活動を学校に残したら意味が無い気がして、モデル競技では学校と切り離す。

(委員)

入りたい部活が自分の通う学校に無い子どもが、よその学校の活動に参加するチャンスもあるという捉え方ができるかどうか、今後また検討してほしい。

(委員)

まだモデル事業が漠然としており、子どもたちもどうしたらいいか悩むと思う。普段やっている競技と別の競技をやりたい子どもが必ず出てくると思うが、どのように考えているのか。また、指導者も子どもたちをどのように導くべきか迷うと思う。

(事務局)

あくまで試行期間は、モデル競技の部にもともと所属している生徒のみが対象になる。現在、中体連の大会は学校の部活に所属していないと出られない点からも、対象生徒を限定した。ご指摘の点は今後の検討課題と捉える。

(委員)

土日の指導者として教員が参加したら学校と切り離すのは無理だと思うが、いかがか。

(事務局)

顧問の先生が一人で面倒を見たり外部コーチと一緒に指導したりしている負担を減らすことが目的であるが、教員本人が休日も参加したいと競技団体と話し合いの上参加することは妨げない。その場合、教員の業務の延長ではなく、個人として指導することになる。指導者としての報酬が出るし、必ず2人以上で指導するようルールを設ける予定である。

(委員)

野球について、競技団体のアンケートでは「できない」と回答されていたのは、指導者がいないからなのか。野球をする子どもは多く、クラブチームとして指導している人もいる。野球は今後一切移行されないのか。将来の在り方について聞かせてほしい。

(事務局)

野球協会からのアンケートの回答について、協会は主に審判活動をしており、指導者を確保できていないとのこと。休日は各種大会の審判で多忙のため指

導に回れないとの回答だった。

(委員)

野球の指導者は野球協会に所属していない。野球協会にアンケートを取ったのがそもそも適切ではなかったと思う。

(事務局)

野球については、硬式や軟式など団体が多岐にわたっており、競技人口が多いことも認識している。それだけに時間をかけた別のアプローチが必要と考えており、決して移行しない訳ではないことをご理解願いたい。

(副会長)

8月末から移行が始まるが、ちょうど色々な大会が始まる時期である。大会参加に関しては学校単位と資料に記載してあるが、大会前にはだいたい練習試合が必要である。そのときは土日の活動であっても学校主体になるし、競技団体とも協議しなければならないと思うので資料の文言を工夫してほしい。

また、緊急時の対応について、教員は出欠の有無から、来る途中で事故に遭っていないか等心配になるが、自由参加の地域活動では、その場に来た生徒が指導の対象になると思う。そのような意識の違いもあり、緊急時のマニュアルの作り方が難しいと思う。

(事務局)

マニュアルやガイドラインについて、現時点では正直まったく見えていないのでご意見は大変参考になった。またご相談しながら作成したい。大会の参加と練習試合については、活動計画を作成するときに競技団体が顧問の先生と連絡して調整できればと考えているので、資料の文言を修正する。

(副会長)

顧問と競技団体の調整に係る時間に対し報酬が出るか考える必要がある。また、地域移行について中心になる人物が一人必ず要と思う。片手間でできることではないので大変かと思うが、検討してほしい。

(会長)

9月半ばに新人戦が始まるが、練習試合を組んで土日に試合する場合、その練習試合の日の引率等は学校が担当することになる認識で良いか。

(事務局)

そのイメージである。

(委員)

スポーツをしていると小さい怪我が結構あったり、怪我によっては大きな後遺症が残ったりすることもあるため保険は必要だと思うが、指導者の責任もあると思う。このことから、指導者はちゃんとした資格を持った人でなければならないと思う。

また、中学校の部活が地域移行となり、自由参加になることで中学生の体

力減退を懸念している。楽しんで親しめる運動も選択肢にあれば良いと思う。そのような意味で、大きくとらえた移行を進めてほしい。

(委員)

令和4年度中に始め、令和5年度から段階的に移行する計画だが、何年後に全競技が地域移行するかの見通しはあるか。

(事務局)

ひとつの目安として、3～5年の間に全競技を移行することを考えている。もたもたしていると子どもたちの数が減って部活動が成り立たなくなってしまうことも考えられるので、3～5年の間に進めたい。

(会長)

3年の間に国も何か方針を出すだろう。また中体連の大会参加資格についても話が進んでいくと思う。

(委員)

運動部は検討が進んでいるが、文化部はどのようにフォローしていくのか。

(事務局)

文化部についても取り組んでいかなければならない。県内で実施しているモデル事業の報告会に参加するなどして検討を進めている。

## (2) その他

- ・ 次回日程は5月下旬。

- 3月下旬までにモデル競技を選定し、4月に学校に通知する。